

③2小田急小田原線(代々木上原駅～梅ヶ丘駅間)連続立体交差事業

授賞機関 東京都 建設局 道路建設部

キーワード 地下化、逆巻き工法、賑わいあるまちづくり

全建賞審査委員会の評価ポイント

小田急小田原線の地下化事業。小田急線と交差する京王井の頭線橋梁架替工事と同時施工で進めることで工期短縮を図った点や、地下化により創出された地上部に自転車駐輪場や商業施設、賃貸住宅施設等を整備することにより、賑わいあるまちづくりにも寄与している点が評価された。

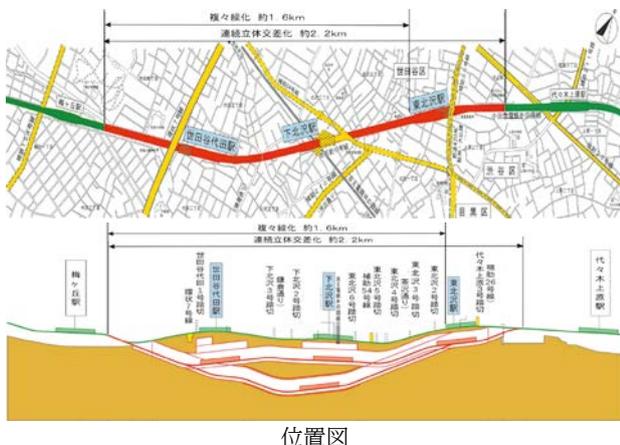
1. はじめに

都内には、今なお約1,050箇所の踏切があり、このうちピーク時1時間あたり遮断時間が40分以上のいわゆる「開かずの踏切」が200箇所以上存在する。これらの踏切は、東京の最大の弱点である慢性的な交通渋滞や市街地の分断等を引き起こし、都市機能の低下を招く大きな要因となっている。東京都建設局では、鉄道事業者及び沿線区市と協力し、これらの諸問題を解決する手段として、道路と交差する鉄道を一定区間連続して立体化する連続立体交差事業を推進している。

2. 事業の概要

本事業は、東京都が事業主体となり、小田急小田原線(代々木上原駅～梅ヶ丘駅間)約2.2kmを地下化することにより、9箇所の踏切を除却し、道路交通の渋滞や踏切事故を解消するとともに、総合的なまちづくりを推進するものである。

また、東北沢駅から梅ヶ丘駅までの延長約1.6kmについては、小田急電鉄(株)による複々線化事業を併せて実施し、鉄道の輸送力強化の実現を図った。



位置図

3. 事業の成果

小田急線と京王井の頭線が交差する下北沢駅部では、

小田急電鉄(株)、京王電鉄(株)と綿密な調整を行い、逆巻き工法を採用することにより、小田急線地下化工事と京王井の頭線橋梁架替工事を同時施工で進めることが可能となった。その結果、工期短縮を図ることができた。

事業効果の一例として、鉄道の地下化により、補助26号線(代々木上原3号踏切)では最大約300mの交通渋滞が解消され、自動車の平均旅行速度が12km/hから21km/hと約1.8倍に向上した。

また、地下化後に地元の方々に行ったアンケートの結果、約9割の方から「子供の通学・高齢者の移動など安心感が高まった」との回答を得た。

さらに、地下化後、新たに生み出された鉄道地上部では、現在、緑地と一体となった駅間通路や自転車駐輪場、広場などが整備されたほか、下北沢駅上部の商業施設や、東京農業大学のオープンカレッジとカフェレストランの複合施設、賃貸住宅などが整備・開業されており、賑わいあるまちづくりにも寄与している。



事業完了後状況(世田谷代田駅～梅ヶ丘駅間)

4. おわりに

本事業により、交通渋滞の解消による道路交通の円滑化や、鉄道、道路それぞれの安全性の向上が図られるとともに、沿線の既成市街地の分断を解消し、地域の活性化や利便性の向上にも寄与するなど大きなストック効果が発現している。

本事例が、連続立体交差事業の更なる推進と、都市機能向上の一助となれば幸いである。

最後に、事業にご協力いただいた関係各所の方々に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。